

オリーブの緑枝ざしに関する研究*

三木隼人,三木昭二,笠井宣弘

オリーブの省力,能率的育苗法としての緑枝ざしについて,昭和38-43年の6カ年にわたって研究した結果,次のことが判明し,実用化の技術確立がなされた。

1. ビニールフィルム被覆の電熱温床で、冬季緑枝ざしが可能である。ただ,温湿度管理にやや労力を要する。
2. ミスト法を利用すれば、省力,能率的に緑枝ざしがおこなえる。その場合,ビニール二重被覆による飽和湿度環境を保つことが必要である。
3. ミストは夏季は15分ごとに、春秋は20~30分ごとに,冬季は30~60分ごとに5~10秒間実施すべきである。
4. 発根に適する床温度は20~25°Cであって,特に冬季のボトムヒートは好結果を示す。
5. 夏季高温期においても,ミスト処理下では温度上昇にそれほど神経質になる必要はないが,40°C内外におさえるのが望ましい。
6. オーキシンの処理は,発根促進,根数増大に顕著な効果がある。特にIBAの高濃度溶液(1000~3000PPMの50%エタノール溶液)の切口瞬間浸漬法は卓効を示す。
7. 品種間にはかなりな発根難易があるが,発根困難品種でも60%以上の発根率は得られる。
8. 緑枝ざしは周年可能であるが,新枝発育初期の5月はやや不安定な発根となる。
9. さし木時期は発根個体の苗床移植適期(3~4月6月,9~10月)から逆算するのが望ましい。
10. 発根に要する期間は,IBA処理をした場合,夏季高温期で約30日,低温期では60~90日を要する。しかし,発根困難な品種ではこれよりも長期間を要する。
11. 床土はパーライトが最も適し,砂もかなり適する。
12. 白熱電灯の終夜照明は発根促進に有効である。
13. 苗床移植後1~1.5年で成苗となり,本畑定植後も実生台接木苗より良好な発育をみる。

